



2023. 11. 24

令和5年度 筑波大学(東京キャンパス)公開講座

令和5年度筑波大学(東京キャンパス)公開講座 「特別支援教育の教材・指導法の基礎」を実施しました。

11月23日(祝)に筑波大学(東京キャンパス)において、令和5年度筑波大学(東京キャンパス)公開講座「特別支援教育の教材・指導法の基礎」をオンラインで実施しました。北海道から沖縄まで全国の先生方53名が参加され、情報保障が必要な先生には、テキスト資料の配付とPC要約筆記での字幕の提示を行いました。

アンケートからは概ね満足という結果が得られています。各障害種の講義は専門以外の話が勉強になったという感想が複数あり、特別支援教育連携推進グループの特色を出せたのではないかと考えています。疑似体験については講義中も参加者の反応が高く、事後アンケートでは高く評価する意見も得られました。アンケートをふまえて、次年度の開催内容を考えていきたいと思えます。

講義は筑波大学の障害5附属学校から派遣されている連携推進グループ構成員と附属大塚特別支援学校の教員が担当しました。

- ・「特別支援教育における教材の活用と指導について 竹田恵 筑波大学附属桐が丘特別支援学校教諭」
- ・「見えにくさのある子どもへの教材・指導法 中村里津子 筑波大学附属視覚特別支援学校教諭」
- ・「聞き取りにくさのある子どもへの教材・指導法 橋本時浩 筑波大学附属聴覚特別支援学校教諭」
- ・「動きにくさのある子どもへの教材・指導法 竹田恵 筑波大学附属桐が丘特別支援学校教諭」
- ・「理解のしにくさのある子どもへの教材・指導法 佐藤義竹 筑波大学附属大塚特別支援学校教諭」
- ・「見通しのもちにくさのある子どもへの教材・指導法 稲本純子 筑波大学附属久里浜特別支援学校教諭」

The screenshot shows a Zoom meeting interface. On the left, a presentation slide titled "動きにくさについて (疑似体験)" (About difficulty in movement (simulation experience)) is displayed. The slide content includes: "動きにくさの疑似体験" (Simulation experience of difficulty in movement), "<疑似体験の目的>" (Purpose of simulation experience), "・動きにくさをイメージできることは、適切な手だてや配慮を考えるヒント" (Being able to imagine difficulty in movement is a hint for thinking about appropriate handling and support), and "かかわりの質・量を学習の目的・環境(状況・条件)によって、使い分けることが大事" (It is important to use the quality and quantity of involvement differently depending on the purpose of learning, environment (situation/condition)). To the right of the slide is a video feed of a female presenter. On the far right, a chat window is open, displaying a message in Japanese that discusses the importance of understanding individual needs and providing appropriate support, mentioning a specific product (slip-resistant mat) and its application in learning activities.

講義の様子